

～輝きの子育て～

子どもを誉めるとその子のためにならない。かつては、そんなふうに言われていました。親自身もそう思っていました。けれど、そんな時代は終わったのです。

子どもを誉める。それは、その子を認め、励ますことです。子どもは親に自分を見てほしい、認めてほしいと思っています。親に誉められて、子どもは伸びるのです。

子どもと一緒に何かする機会を、できるだけ多く持ちましょう。一緒に何かしていれば、子どもの様子がよく分かるものです。

たとえば、小学校の息子さんの野球の試合を見に行きましょう。別に一緒に野球をしなくてもいいのです。親が自分を見ていてくれると思うと、子どもは励まされます。知らん顔しているようでも、内心では嬉しく思っているのです。後で、感想を伝えて、頑張ったことを誉めてあげましょう。

もっと大きくなった子どもとは、じっくり話をする機会をつくってほしいと思います。学校や友達の話、趣味の話などをして、その子の今の状態をつかんでほしいのです。

あなたのお子さんは、活発なお子さんでしょうか。それとも内気なお子さんでしょうか。時間をつくってじっくり話をする、日ごろは言わなかったようなことを、打ち明けてくれることがあります。

あるお母さんは、息子さんが友達ができなくて悩んでいることを、腰をすえて話をしてみても初めて知りました。辛い気持ちを聞き、楽にしてあげたいと思ったそうです。

子どものよい聞き役になって、気持ちを受け止めてあげることは、とても大事なことです。この子はこんなに繊細でやさしかったのかと、今さらながら驚くこともあるでしょう。

子どもは日々成長しています。何かの機会に、この子はもうこんなに大きくなったのかと驚くことがあるかもしれません。

「お母さん、見て！見て！できた、できた！」嬉しいとき、子どもは手をたたき、ぴよんぴよん跳びはねて叫びます。私たち大人は、こんなふうに体中で喜びを表すことはあまりありませんね。でも、これはすばらしいことです。子どもといっしょに喜べればと思います。

子どもをほめたいのに、素直にそう言えない親御さんも、あるいはいらっしゃるかもしれません。息子さんの自慢話をお隣の奥さんには長々とするのに、子どもの前では何も言えない。ひょっとするとそんなこともあるかもしれません。子どものそばで微笑んでください。頑張ったら誉めてあげてください。黙っていても、たとえ親子の間でも伝わりません。子どもを誉めて、いっしょに幸せな気持ちになれば、こんなに素敵なことはありませんね。

どんな子供でも
毎日必ずしも誉めてあげないで
「大好きよ」と言ってくれたら